

CCSフォーラム ～地球温暖化とCCS～

平成23年10月8日(土)、CCSフォーラム「地球温暖化とCCS」が、経済産業省主催、苫小牧市後援により、CCS実証試験の候補地である北海道苫小牧市で一般市民向けに開催されました。

第1部の講演では、財団法人日本総合研究所理事長の寺島実郎氏から日本のエネルギー政策は今後どのように変わっていくか、東京大学大学院教授の佐藤光三氏からCCSとはどのような技術か、なぜ必要かなどを分かりやすく説明していただき、第2部のパネルディスカッションでは各分野の方々がそれぞれの立場からコメントされました。最後の質問コーナーでは、会場からCCSに関するさまざまな質問やご意見が寄せられました。

1. 開催概要

名称： CCSフォーラム 地球温暖化とCCS
目的： CCSの必要性、しくみ、安全性などを広く周知し、正しい理解を得る
日時： 平成23年10月8日(土) 14:00～16:10
会場： グランドホテルニュー王子(北海道苫小牧市表町4-3-1)
主催： 経済産業省
後援： 苫小牧市
来場者数： 297名(苫小牧市およびその近郊の住民)
総合司会： 宇都宮 庸子(フリーアナウンサー)

プログラム：

主催者挨拶

経済産業省 大臣官房審議官(産業技術・環境担当) 中西 宏典

後援者挨拶

苫小牧市長 岩倉 博文

第1部 講演

* 「エネルギー・環境問題のパラダイム転換」

財団法人日本総合研究所 理事長 寺島 実郎

* 「CCSの概要」

東京大学大学院 教授 佐藤 光三

第2部 パネルディスカッション

パネリスト

東京大学大学院 教授 佐藤 光三

苫小牧駒澤大学 教授 川島 和浩

苫小牧市長 岩倉 博文

経済産業省 大臣官房審議官 中西 宏典

当社代表取締役社長 石井 正一

コーディネーター

慶應義塾大学大学院 特任教授/キャスター 林 美香子

※敬称略

2. プログラム

■第1部 講演

「エネルギー・環境問題のパラダイム転換」

財団法人日本総合研究所 理事長 寺島 実郎 氏

- ・ 先進的な環境技術の象徴として、CCSが今後重要になる
- ・ 原発問題はあまりに重い。日本はエネルギー政策の転換点にある。
- ・ 21世紀の課題は、3E (Environment, Economy, Energy) のバランス調整。
- ・ 日本のエネルギーベストミックスは何？
- ・ すべてを再生可能エネルギーへと、単純にはいかない。CCSは、CO2削減技術の一つとして大変重要なプロジェクト。

「CCSの概要」

東京大学大学院 教授 佐藤 光三 氏

CCSのしくみや海外先行事例などの紹介、貯留後、海や地表に漏れ出すリスクについての解説。CCSは自然調和的な技術。CO2の貯留は、自然が許容する規模と圧入速度に抑えれば安全に実施できる。このため、貯留する規模や圧入速度の検討、長期のモニタリング体制に加えて情報提供が重要。

■第2部 パネルディスカッション

東京大学大学院 教授 佐藤 光三 氏

- ・ 調査で安全性が確認できた地層に、この地層が許容する規模や圧入速度を守って貯留すれば問題ない。
- ・ CCSは、先進国の立場として取り組むべき事業だ。

苫小牧駒澤大学 教授 川島 和浩 氏

- ・ CCSで地元の活性化や雇用拡大などの経済効果が見込める。
- ・ 世界における「苫小牧」の知名度アップ。

苫小牧市長 岩倉 博文 氏

- ・ CCSの実証試験を、CO₂を利用する企業の誘致につなげたい。
- ・ 実現した場合は、安全対策と地元への速やかな情報提供をお願いしたい。

経済産業省 大臣官房審議官 中西 宏典 氏

- ・ 地球温暖化は、まったなしの状態。
- ・ 省エネ、自然エネルギーに加えCCS技術も総動員して、国あるいは世界全体で取り組む必要がある。
- ・ CCSは、引き続き使用が求められる石炭等化石燃料に関して極めて有効な技術。
- ・ アジアのリーダー役として率先してプロジェクトに取り組めることを期待。

当社 代表取締役社長 石井 正一

- ・ CCSというのはどこでもやれるというものではない。事前調査による地下の適性と地元の理解と支援が重要。
- ・ 東日本大震災以降、想定外ということはもう通らない世の中。想定外のことも想定するような形で、さまざまなシミュレーションをしている。
- ・ 十分監視できるモニタリング体制、安全対策が重要。

以上

CCSフォーラム事務局
日本CCS調査株式会社

